

訂正

日本消化器病学会雑誌 117 巻 5 号（2020 年 5 月発行）症例報告「敗血症性肺塞栓症を合併した過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* 肝膿瘍の 1 例」に対し、新潟市民病院医誌 39 巻 1 号（2018 年 9 月発行）掲載の症例報告「組織侵襲性 *Klebsiella pneumoniae* のスクリーニング検査に string test が有用であった一症例」と同一症例を題材とし、二重出版にあたるのではないかと会員より疑義が寄せられ協議しました。

研究の切り口が異なり文章や図表に重複は認められないものの、日消誌掲載論文は新潟市民病院医誌掲載の症例報告を引用すべきであり、下記に日消誌掲載論文での引用箇所を提示致します。

p437 9 行目 *印

はじめに

Klebsiella pneumoniae (KP) は、腸内細菌科のグラム陰性桿菌であり、近年、KP 肝膿瘍の重篤例として、眼内炎、髄膜炎などの多臓器にわたる全身感染症を併発する invasive liver abscess syndrome (ILAS) の報告が散見され、ムコイド産生型の過粘稠性 KP との関連が示唆されている^{1)~10)}。今回われわれは、過粘稠性 KP 肝膿瘍に敗血症性肺塞栓症 (septic pulmonary embolism ; SPE) を合併した 1 例を経験した*。診断、治療経過が示唆に富む症例と考え、文献的考察を加えて報告する。